

歯っぴいらいふ2025年3月号

あたらし歯科医院

歯科衛生士 栩木 誠子

3月になり少し春を感じるあたたかい気温の日もありますが、同時に花粉症の人には大変つらい季節となりました。

今年は大雪の季節となりましたので、生活するのも大変な状況もあったようです。
春が待ちどおしいですね。

日本には四季があります。春は人生のスタート、門出を迎えられる方も多くいらっしゃると思います。新しいことにチャレンジするのも良いですね…

さて歯っぴいらいふでしばらくお届けしておりました矯正治療ですが、今回で終了とさせていただきます。

最後には治療スタートの時期、費用面、矯正中の生活について書かせていただきます。

矯正はかみ合わせや歯並びの状況によりスタート時期も違います。



治療の開始には一人一人にあったタイミングがあります。

患者様から治療は何歳から始めるのがいいですか？と質問を受けることがあります。それは難しいことでもあり、何歳からでも始めることは出来ませんが、より効果的な結果を得るために、幼児期から歯科医が定期的に観察していくことが理想的です。

ですからかかりつけ歯科医を持つことはとても大切であると思います。

小さいころから観察していれば歯並びや口元、かみ合わせの問題など、そしてかみ合わせの土台となる顎の形や大きさなどすべてを知ってくれている診断はとても大切です。

早期治療と本格治療

早期治療とは、乳歯の時期や乳歯と永久歯が混じりあった時期に顎の成長を見ながらかみ合わせや顎の形や大きさ、などの改善を図ります。

お子様の成長は早いので、悪い因子をそのままにしておくとさらに悪い方向に向かってしまう事が心配されます。

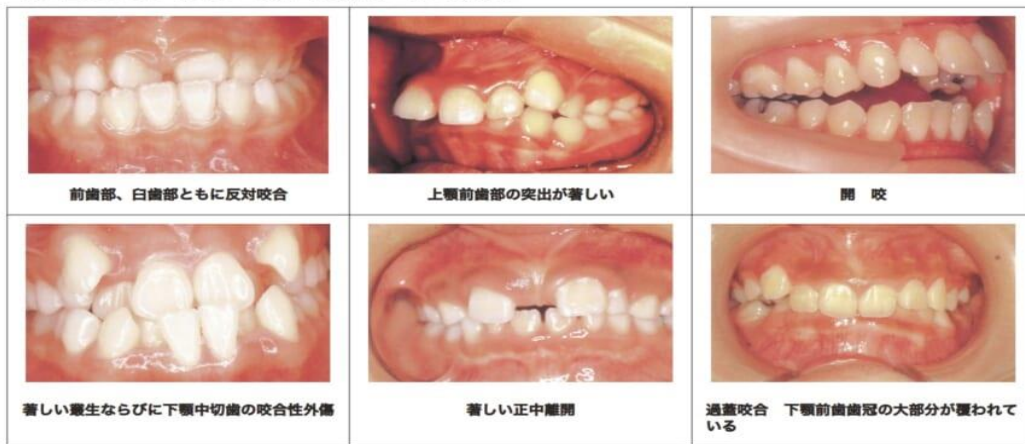
早い時期に問題を見つけ、良い方向に導くことが早期治療の目的です。

本格治療は大人の骨格として顎の成長がある程度予測のついたところで永久歯の良いかみ合わせと歯並びを得るため矯正装置を使って、本格的に取り組む治療です。

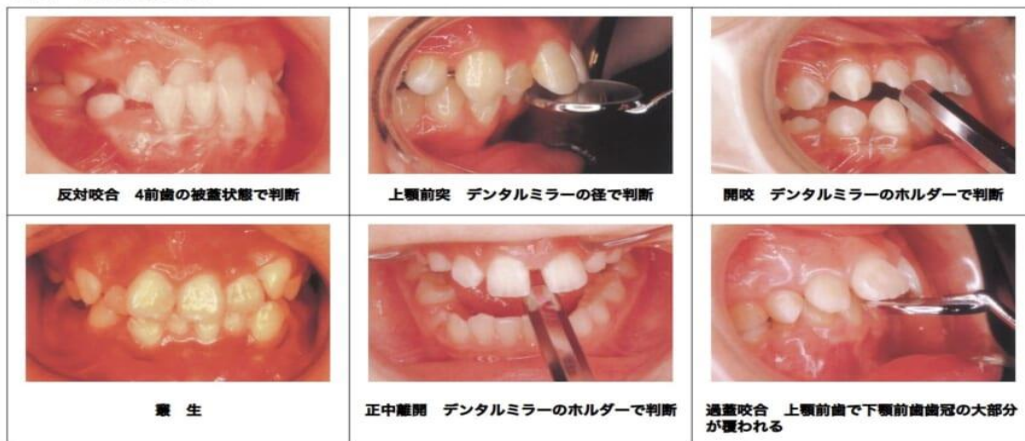


2：要精検

特に注意を要する歯列・咬合（要精検「2」の対象）



歯列・咬合の診査法



治療方針が決まるまでは精密な検査が必要です。

大まかな流れといたしましては…初診、相談、精密検査、治療方針の決定となりスタートします。

矯正装置を付ける期間も皆さまは気になる事だと思います。

スピードが好まれると思いますが、本当にこれでよいのでしょうか？

半年で歯並びがキレイになるとか人口の差し歯で短期間に治した芸能人を見たことはありませんか？

1から2本の少ない歯ならまだしも、いわゆる悪い歯並びを見た目だけでなく機能面も健康な状態に持っていくには半年やそこらでは治すことは困難です。

巷に広がるキャッチフレーズに惑わされずご本人の治療の目的や希望などをよく整理し歯科医に話されることをお勧めします。

矯正治療の費用は自費となります。

医院により価格は異なります。ただし健康保険が適応される診察もあり、厚生労働大臣が定める疾患に起因した咬合異常として、唇顎口蓋裂、その他10の先天性疾患と顎変形症で手術が必要となる症例などは健康保険が適応となります。

矯正中の生活について…

装置を付けた後、ワイヤーを好感した後など1から2日ほど鈍い痛みや歯が浮いた感じがすると訴える方もあります。

食事中の違和感を訴える方もおられます。

また装置が粘膜に当たって傷が出来口内炎が出来てしまう方もおられます。

何より大切なのは歯磨きです。

装置をつけることで歯の表面に凹凸ができ食べかすが付着しやすくなり、矯正中はしっかりと歯磨きをしてください。

矯正治療についてご理解いただけましたか？

お伝えしたことを少し考えて頂き、矯正治療について検討してみてください。

素敵な笑顔の口元で、素敵な毎日を…

あたらし歯科医院

歯科衛生士

栩木 誠子